

令和5年度 有玉小学校自己評価書

(「よりよい有玉小づくりのためのアンケート」児童・保護者・教員回答より)

本年度の教育活動について、児童・保護者・教職員にアンケート調査を行い、達成状況について自己評価を行った。また、アンケート結果を受けて、次年度以降重点的に取り組むことを話し合い、対策を検討した。

アンケートは15項目から1つ選ぶ形で行った。アンケート結果は、15項目のそれぞれを選んだ割合をグラフで表した。

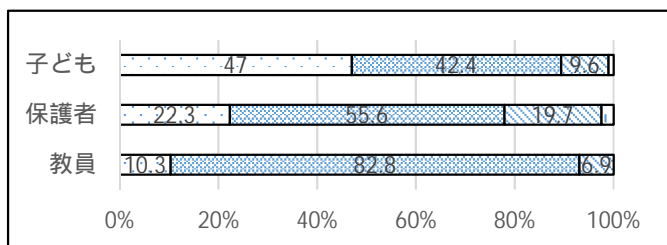
できている だいたいできている あまりできていない できていない

1【確かな学力】「自ら考え、学び合う子の育成」

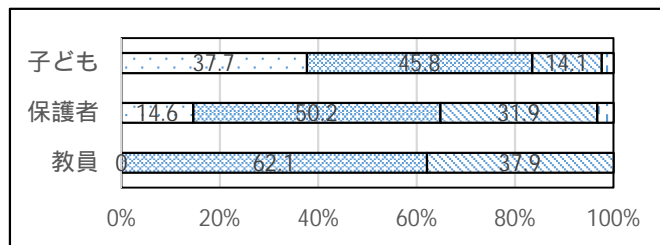
表現力や思考力を身に付けさせ、個別最適な学びや協働的な学びを通して自分の考えを広げ、伝えることができる子を育てる。

目標：85%

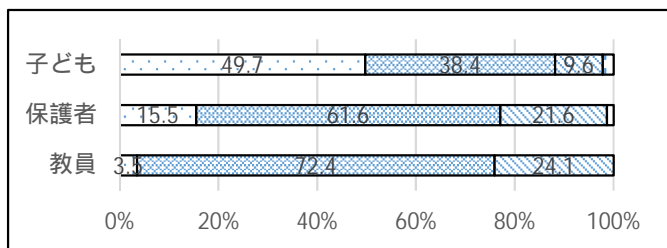
(1) 考えを書いたり言葉で伝えたりできている。



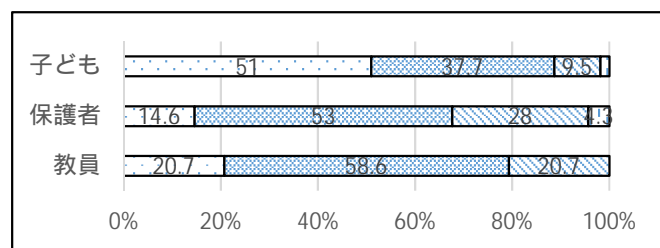
(2) 考えを分かりやすく相手に伝えることができている。



(3) 自分の考えを確かなものになっている。



(4) 学びの方法を選び、解決に生かすことができている。



< 成果と課題 >

- 今年度は授業の中で、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に取り入れたことにより、子供一人ひとりがしっかりと自分の考えを持つことができている。
- 児童は友達との交流において、考えを共有したり、比較したり、立場を明確にしたりすることで、考えを確かなものにするできている。

多くの保護者や教職員は、児童が自分の考えを分かりやすく伝えることに課題があると感じている。(「できている」「だいたいできている」70%)

↓

< 課題に対する対策 >

児童が自分の考えを伝えることができたと実感できるように、今年度に引き続き、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に取り入れていく。

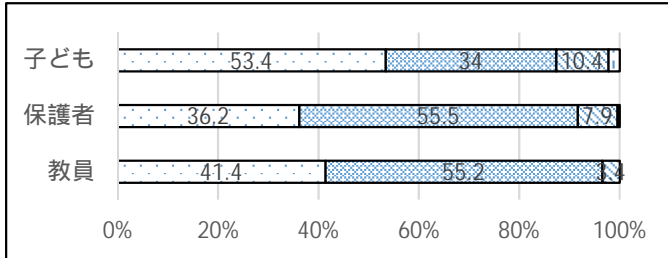
個に応じた伝える手段を選ぶことができるようにするために、伝える手段の選択肢を増やす(書く、話す、ICTの活用など)。

2【豊かな心】「自らかかわり、認め合う子の育成」

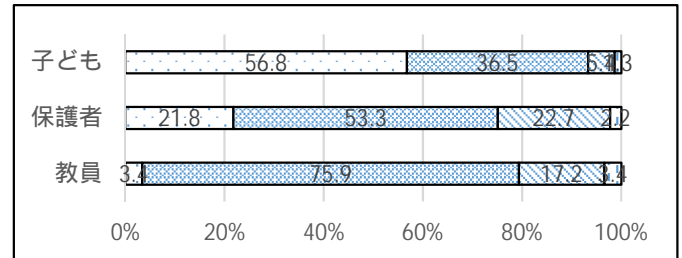
振り返ったり、認め合ったりする場を増やし、自信をもって自分や友達のよいところを言える子を育てる。

目標：100%

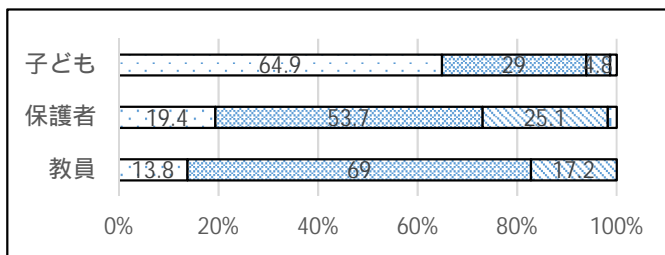
(1) 自分や友達の良いところを見つけることができる。



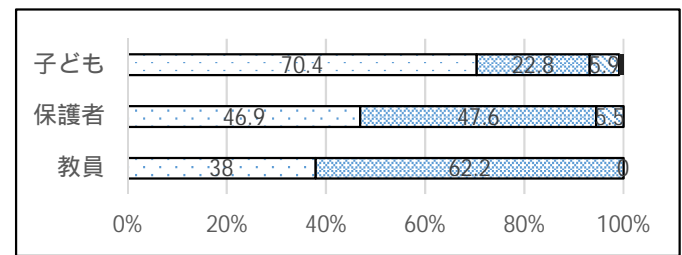
(2) 「ふわふわ言葉」を使っている。



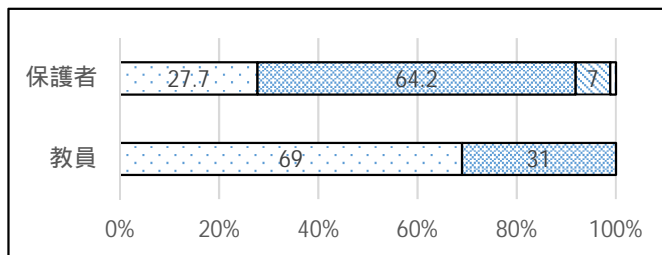
(3) 自分で考えて行動することができる。



(4) 「ありがとう」を言ったり言われたりしている。



(5) 学校は子供の困り感に寄り添い、適切に対応している。<保護者・教員>



<成果と課題>

- 児童、保護者、教職員共に、「自分のよいところを言えている」「ありがとうが言えている」と感じている。昨年度の割合を大きく上回っている。(84%→94%)。お互いを認め合える温かい人間関係が構築されていると考えられる。
- 3分間ボランティア、係活動、委員会活動などでは、学校がより良くなるために考えて行動することができる児童が多い。(94%)
「ふわふわ言葉」については、児童「できた」「大体できた」(94%)と保護者、教職員(76%)の評価に隔りがある。

↓

<課題に対する対策>

日常生活の中での言葉遣いについて、「ふわふわ言葉」について継続的に指導をしていく。児童が意図せずに関係者を傷つけてしまっている可能性もあるため、日頃の言葉遣いについて、教職員が同一歩調で声掛けをしていく。人を傷つけない言葉、励ましの言葉、温かい言葉など

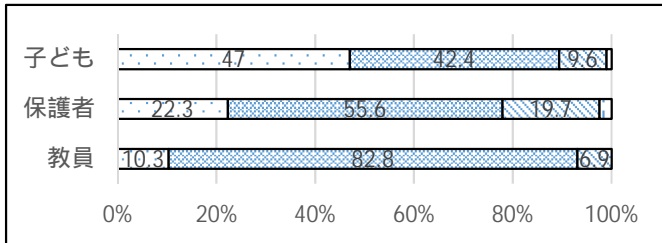
学校は子供の困り感に丁寧に寄り添い、保護者に対してしっかりと説明をし、児童や保護者にとって学校が楽しく、安全な場所であると実感できるよう、適切に対応を進めていく。

3【健やかな体】「自ら鍛え、高め合う子の育成」

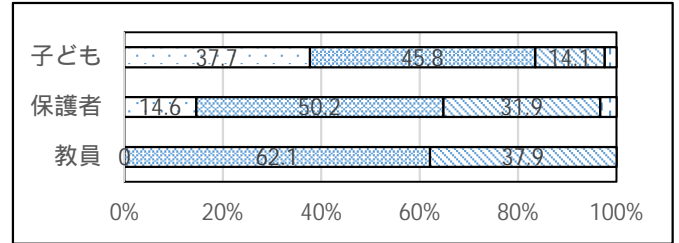
○心身の健康のために、自ら鍛え、仲間と共に高め合い、進んで運動に親しんだり健康や安全に気を付けて生活したりしようとする態度を育てる。

目標：<健康>85% <安全>90%

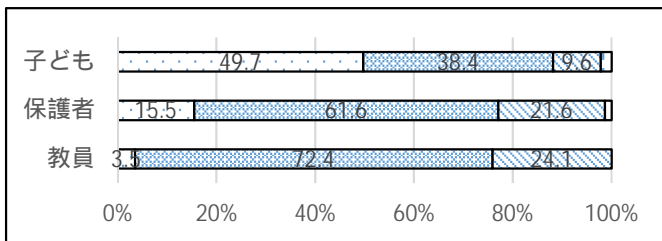
(1) 楽しく運動している。



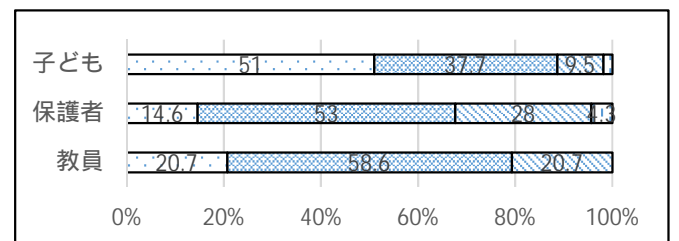
(2) 協力して運動したり、仲良く遊んだりしている。



(3) 心が元気かどうか考えて生活している。



(4) 安全な行動の仕方を学び、安全に行動することができている。



< 成果と課題 >

- 体育の授業では、振り返りカードを活用し、個のめあてに応じて、一人ひとりが前向きに技の獲得や試合に取り組んでいる様子が見られる。
- 「心のアンケート」「ハイパーQU」「有玉っ子アンケート」などを通して、多くの子供が自分の心の状態の把握に努めている。(85%)

学校生活における児童の満足感や意欲、学級集団の状態等を測定するもの

一定数の児童が、心の状態に不安を抱えている。

安全な行動について、「あまりできていない」「できていない」と答える児童、保護者、教職員が20%程度いる。

↓

< 課題に対する対応策 >

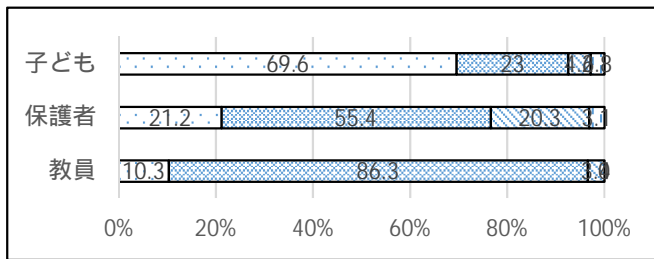
児童の心の状態にも目を向け、調整する力を身に付けることにも重点を置く。心の日、心のチェックシート、いじめアンケートなどを活用し、教師が個々の状態を把握し、気になる児童については早期に対応する。また、養護教諭と連携し、心の健康づくりについて理解を深めたり、友達との相互理解を深めたりする活動に取り組み、良好な人間関係を築くことができるようにする。

より実際の場面を想定した各種訓練を行い、「自分の命は自分で守ること」を児童に繰り返し指導をしていく。保護者や地域とも連携をし、児童の安全確保に努めていく。

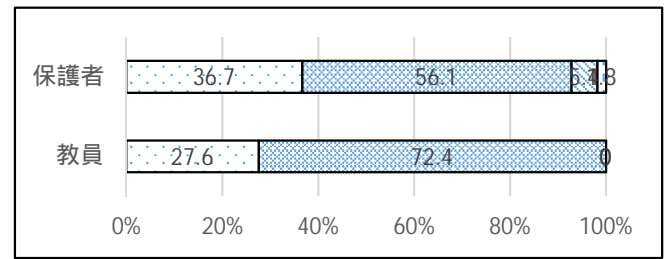
4【未来創造への人づくり】 【市民協働による人づくり】

- キャリア教育を核とした人づくりの推進
- コミュニティスクールを基盤とした、家庭・地域との連携。

(1) 夢や目標に向かって努力している。



(2) 家庭や地域との連携が成長につながっている。 <保護者・教員>



<成果と課題>

- 「夢や目標に向かって児童が努力している」について、児童、教職員の約90%、保護者の80%が「できている」「大体できている」と回答している。児童の夢や目標を多くの大人が見守っていることが分かる。
- 家庭や地域との連携が、児童の健やかな成長につながっていることが結果から明らかである。有玉小の児童が周りの大人に大きく支えられて成長していくことが改めて分かった。

↓

<来年度の対応策>

学校運営協議会との連携の具体。

地域の方による登下校の見守り活動の依頼。

教育相談、参観会などの機会を利用して、保護者の方との信頼関係を構築しながら、学校と家庭が一体となって児童の教育に携わっていく。

引き続きキャリア教育に力を入れ、「なりたい自分」をイメージしながら、日々の教育